

山形県保健師長会ニュースレター

平成31年1月10日 第14号 発行：山形県保健師長会

2019年、亥年の今年は新たな元号を迎えるなど希望に満ちた年の予感がしますが、会員の皆様には健やかに新春をお迎えのことと存じます。 亥 亥 亥 亥

大変遅くなりましたが、山形県保健師長会ニュースレター第14号をお届けいたします。今回は、平成30年度総会並びに研修会、東北ブロック研修会の報告です。



【出典：全国保健師長会ホームページより】
シンボルフラワーのタイムです。

平成30年度山形県保健師長会総会の報告

平成30年6月30日(土)、山形県看護協会訪問看護会館にて開催いたしました平成30年度山形県保健師長会総会には、会員41名(委任状125名)の出席があり、提出議案すべて承認されました。休日のお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

今年度の山形県保健師長会の会員数は182名(前年度と同数)、全国保健師長会の会員数は71名(前年度より5名増)となりました。引き続き、会員増へ向けたご協力をお願いします。

【平成30年度の主な事業計画】

1 研修会等への派遣

(1) ① 東北ブロック支部長会議

〈日時〉平成30年9月1日(土)

〈場所〉岩手県盛岡市

② 東北ブロック研修会

〈日時〉平成30年9月1日(土)

〈場所〉岩手県盛岡市(派遣人数2名)

(2) ① 平成30年度全国保健師長会研修会

〈日時〉平成30年11月8日(木)～9日(金)

〈場所〉愛知県名古屋市(派遣人数1名)

② 平成30年度全国保健師長会代議員総会

〈日時〉平成30年11月10日(土)

〈場所〉愛知県名古屋市(派遣人数2名)

2 保健師人材育成検討会への出席

昨年度に引き続き、山形県より依頼を受け、平成30年度山形県保健師人材育成ワーキンググループメンバーとして下記の市町村保健師3名を推薦いたしました。現在、平成28年度に作成した「山形県保健師活動指針」を踏まえた「山形県保健師人材育成ガイドライン(仮称)」作成に向けた検討が行われており、第1回ワーキンググループが5月10日(木)から開催されています。

推薦者：栗原典子氏(山形市)、村上万里子氏(戸沢村)、小林幸代氏(高島町)

3 その他

- (1) 平成29年度山形県小児保健会委託研究事業を活用し、「山形県子育て世代包括支援センター事例集」を作成しました。県内市町村における子育て世代包括支援センターでの支援活動が一層充実されることを目的に先行設置自治体の活動内容をまとめたものです。ぜひ、参考にさせていただければ幸いです。

- (2) 「山形県の保健師活動のあゆみ～地域をみる・つなぐ・動かす～」

(平成26年3月作成)について配布・販売を行ってきましたが、残部がわずかになったことから実費で希望者にお譲りし、貸出用として2冊程度を会場で保管することになりました。



表紙です

平成 30 年度山形県保健師長会研修会の報告

1 講演「保健師人材育成の取組み～人材育成計画作成と活用～」

講師 山梨県福祉保健部医務課 看護指導監 守屋法子 氏

2 報告「山形県における保健師の保健活動到達状況調査結果について」

報告者 山形大学医学部看護学科 准教授 森鍵祐子 氏

総会に引き続いて開催された研修会（46名参加）では、山梨県医務課 看護指導監 守屋法子先生から「山梨県での人材育成の取組みについて」ご講演をいただきました。保健師の職務経験が多様化する中で、① 現任教育には自身の実践能力の獲得状況を正しく把握し、成長発達の目標設定を促すことが課題 ② 分散配置が進む中で総合調整及び専門的側面から指導する統括的役割を果たす保健師を位置づけ、計画的な人材育成に取り組んでいく必要がある ③ 現任教育が現場と乖離しないよう常にモニタリングを重ねていくことなど、非常に参考になるものでした。

また、山形大学医学部看護学科 准教授 森鍵祐子先生からは、平成29年度に実施した保健活動到達状況調査の結果について報告をいただきました。① 適切なジョブローテーションによる経験が個々の人材育成につながる ② 保健師が自立して出来ると評価できるためには、自己評価だけでなく、客観的な評価も必要であるため、人材育成計画に基づき、適切に評価し調整できる相談・指導体制も必要であるなど、今回の調査結果から様々な課題が明確になりました。

【参加者の感想等について、アンケート結果から一部ご紹介いたします】

- ・自組織の中の保健師活動と併せて保健師の人材育成について体制等を考えていくきっかけになった。
- ・月々の業務に追われ、自分の立ち位置、どのレベルにいるか等、振り返り、考える余裕もない状況。人材育成についても同様で、お話を聞きながら反省していた。
- ・このような機会でないとな人材育成について深く課が得る時間がないため、貴重なお話をお聞きすることができた。自分が育ててもらった恩返しは、後輩を育てることだと感じた。
- ・取り組みが大変参考になった。課題を明らかにして、より活動しやすくしているところに感銘を受けた。「現場が求めるものを」という言葉が印象的だった。
- ・保健師の人材育成についてわかりやすい話でよかった。県、市町村いずれに属していても人材育成の必要性を感じた。

平成 30 年度全国保健師長会東北ブロック支部長会議

平成 30 年度全国保健師長会東北ブロック研修会 出席報告（岩手県）



【出典 全国保健師長会ホームページより】

平成 30 年 9 月 1 日（土）、盛岡市において「平成 30 年度全国保健師長会東北ブロック支部長会議」が開催され、小松会長と佐藤副会長が出席しました。全国保健師長会 常任理事の岡島さおり氏より、全国保健師長会第 1 回拡大常任理事会の報告がありました。特に今年度は全国保健師長会が 40 周年を迎えるため、全国の 8 ブロック研修会でも「みる、つなぐ、動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来～」をテーマに公衆衛生看護の使命を確認・共有できる研修会が予定されています。東北ブロックでも各県の支部活動の強化に向けた取組みを一層進めるために、課題や取組みの情報交換等を行いました。

引き続き、午後からの「東北ブロック研修会」には鶴岡市の児玉理事も参加しました。「地域に責任を持った活動の強化」をテーマに「みる・つなぐ・動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来」と題した講演会（講師 札幌市 地域包括ケア推進担当部長 岡島さおり 氏）で、参加者は 77 名でした。

内容のキーワードを簡単にご紹介しますと、行政保健師は、①地域住民が望む未来を創造するために、「地域住民の声をひろう」、会議は「テーマと人選を調整」、公衆衛生看護技術を生かした「アセスメントとマネジメント」、ソーシャルキャピタルとネットワークを活用した「連携の多様化」、看護は「サイエンス（科学・知性）・アート（技・感性）」、「進むべき方向を明確にするための目標設定」 ②所属組織の施策を確認しながら「基本は住民自治」、大きな課題でも「ミニマム&スモールステップ」で確実で大きな成果を ③単に地域で看護する人ではなく「個人・家族・集団・地域資源等に働きかける看護職」、「客観的ニーズと公衆衛生の向上が目的」「安心・安全な暮らしを支える取組み推進のための企画・立案者」であり、暮らしを支えるためのマネジメントでの「まちづくり」 ④個別支援や地域活動の結果を根拠に「住民がめざす目標を事業や施策に反映すべく組織合意に導く」ために「支援をあきらめない・地域から目をそらさない」こと。そして、最後に常に新たな課題への対応を求められる毎日であっても「今を大切に生きつつ、虹を追うように住民とともに夢に向かって進む仕事が保健師」と結ばれました。

住民活動を支えるしくみづくりや多職種連携の場づくりなど保健師の「みる・つなぐ・動かす」を生かした取組みを具体的に学ぶことが出来た研修会でした。来年度は、宮城県での開催になります。

※ 最上町の東海林理事も参加予定でしたが、8 月 30 日からの庄内・最上地域の大雨被害のため、急きょ欠席となりました。